



あなたの学びが、
地域を動かす。
ここから始まる
新しい挑戦。

Social Innovation Designer Development Program

大学連携型
ソーシャル・イノベーション
人材養成プログラム

琉球大学大学院地域共創研究科
令和7年度より学生受け入れ開始



大学連携型ソーシャル・イノベーション人材養成プログラムのご紹介

地域共創研究科長挨拶

琉球大学大学院地域共創研究科においては、固有の歴史・文化や自然環境をもつ沖縄というフィールドを活かしつつ、変化のスピードが加速するグローバル社会の影響下において、自律的かつ持続的な地域社会を関係者と共創するために必要な専門性を身につけるための学びの場を提供しています。今回、新たな研究科の教育プログラムとして、京都というフィールドでの学びを含む、「ソーシャル・イノベーション」に軸足をおいた人材養成プログラムが加わることになります。

その教育上の意義は、学生が「他」と「多」を含めた多様な視点を得る機会が拡がることだと考えています。何故なら、地域社会の共創の実現には、課題の抽出やその原因の解明、そして、埋もれている「資源」の発見・活用を含めた価値の創造が求められ、そのいずれにおいても多様な視点を有することが不可欠であると考えられるからです。

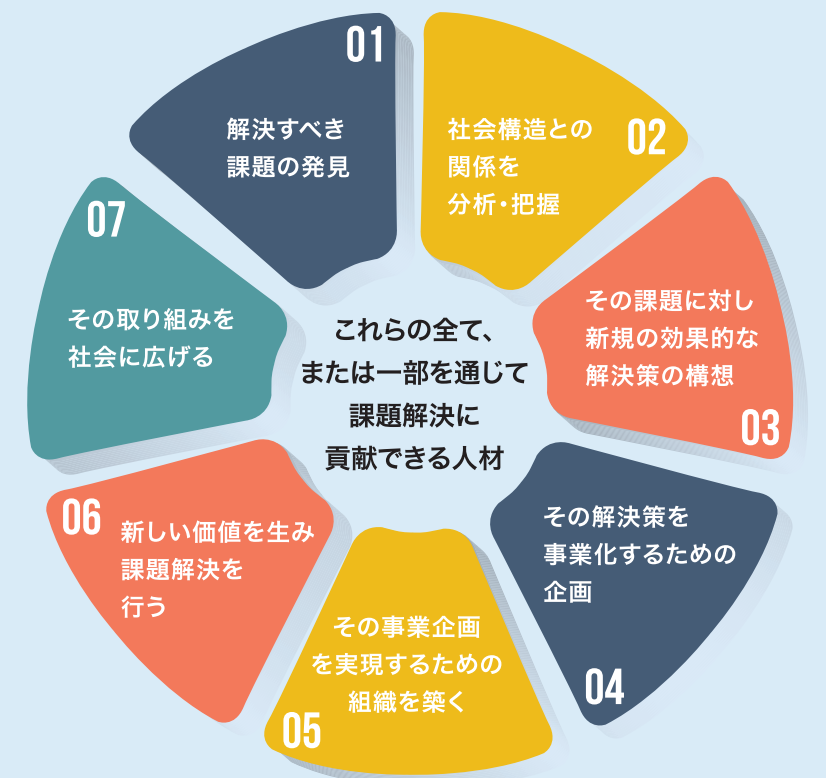
沖縄というフィールドに軸足を置きつつ、異なる固有の歴史・文化をもつ京都というフィールドから「他」の視点を得ることができ、また、龍谷大学や京都文教大学の専門講義の受講から「多」の学びを得ることができるこの新たなプログラムによって、どのような「新たな価値創造」が実現されていくのかとても楽しみです。



本村 真
地域共創研究科長

Social Innovation Skills

ソーシャル・イノベーション人材に
求められる能力



大学連携型ソーシャル・イノベーション人材養成プログラム(以下SIプログラム)とは

現代の複雑化する社会課題に対処するためには、表面的・対症療法的な対策だけではなく、課題の根本にアプローチする革新的な取り組みが必要です。同時にその取り組みは、極端な理想主義に終始することなく、実現可能であり事業として継続可能なものとして設計されねばなりません。これこそが、「ソーシャル・イノベーション」です。

このたび、琉球大学大学院地域共創研究科、龍谷大学大学院政策学研究科、京都文教大学大学院臨床心理学研究科の3大学院が連携し、このソーシャル・イノベーションの力を育む教育プログラムを共同開発することになりました。

ソーシャル・イノベーションの詳細な定義は世に様々ありますが、この3大学院では次のように定義しています。

“
ソーシャル・イノベーションとは、社会の仕組みに起因する課題に対して、社会構造の根底からの問題理解と経営企画能力との両立をもって、新しい発想や価値を創造し、これらを解決する事業実践を行うことである。
”

SIプログラムの魅力について学生へのメッセージ



高畑明尚
地域共創研究科・教授

地元で頑張りたい、地域に貢献したいと思う人は多いですね。
自分の生まれ育ったところをなくしたくない、地元の良いもの・コトを残したい、まちや村を発展させたいと考えるときに、ではどうすれば良いのでしょうか。
いままでは、それを学ぶ機会は少なく、代表事例について知る、視察等をして体感する、関連しそうなことをやみくもに学ぶ、ということが大学でも行政でも行われてきました。しかし、それでは地域社会の衰退を止められなかったのが実情です。

このSIプログラムでは、社会や科学技術の成果を地域社会に還元する方法を習得し、地域社会を魅力ある生産的なものに変え、「だれ一人取り残さない」社会を創るために、3大学の多くの先生が、最先端の内容を多様な方法で教えてくれます。

また、営利・非営利の両方に役立つもの・コトを産み出す人材になるための様々な技法も提供されています。たんに知識を習得するだけでなく、自分が地域社会を再生・発展させるための人材となるトレーニングの材料と方法とが、このSIプログラムには用意されています。ぜひ、あなたも参加して下さい。

教育プログラムと資格認証について

SIプログラムは、大きく分けて「基礎科目」、「キャップストーン科目」、「特別講義」で構成されています。

全てのカリキュラムを修了することで、一般財団法人地域公共人材開発機構（COLPU）による「ソーシャル・イノベーション・デザイナー」の資格認証を受けることができます。

まず基礎科目群は、ソーシャル・イノベーションに必要な理論や知識に関わる各大学院提供の科目です。

3大学院は共通して、この科目群に属する科目を、「社会構造・社会課題」、「起業・マネジメント」、「イノベーション・変革」、「全体（ソーシャル・イノベーション全般）」という4つの領域に分類しています。（P6参照）

履修者は、この4領域それぞれから1科目以上を受講することにより、バランス良くソーシャル・イノベーションの基礎を身に付けます。

また本プログラム履修者は、単位互換協定により、他大学の対象科目を受講して単位取得することも可能です。

次にキャップストーン科目は、3大学院が合同で開講するPBL型※の通年科目です。1年間かけて、チームで現場巡検や実習・演習を行い、ソーシャル・イノベーションの実践的な提案を行います。チームは所属大学にかかわらず、受講生どうしで共通する関心テーマに則して編成します。

3大学院が連携することで、多様な地域課題・知見・視点に触れ、また知識や知恵を融合・共有することが可能です。

さらに、地方公共団体、NPO、経済団体等のフィールドパートナーから実課題の提供を受け、フィールドパートナーと共に解決策を検討・提案することで、より実践的な学びを深めることができます。

最後に特別講義は、資格認証組織でもあるCOLPUが提供する、本養成プログラムに特化した1つの科目です。

※PBL・・・課題解決型学習。（PBL=Project Based Learning）。実際の課題を通して、解決に向けて能動的に学習に取り組むもの。

「問い」を持つことが ソーシャルイノベーションの第一歩になる

社会で活躍するソーシャルイノベーター

玉城氏インタビュー

Q 本プログラムについてどのような印象をお持ちですか？

A 正直、自分がソーシャルイノベーターだと思って仕事をしている訳ではなく、そもそもソーシャルイノベーターとは何なのか自分でも良く分かっていません。私が取り組んでいることは幅広く、これといった形がない。正解・不正解のない分野なので、大学での講義という形で教えていくのは難しいという印象があります。ただ、だからこそ面白いものが出来るのではないかと感じています。

Q 本プログラムで学生に身に着けてほしいことはなんですか？

A 一番はバランス感覚ですね。何か突出して出来る様になるのも良いですが、ソーシャルイノベーションは今あるものを組み合わせて新しい価値を生み出すことが本質です。物と物、人と人との間のバランスを取るオールラウンダー的な力を持ち、様々な要素を繋ぐ役割を担える人材になって欲しいと願っています。

Q 学生にはどのような意識を持って本プログラムを受講して欲しいですか？

A 新しいことを作り出すためには、多くの選択肢を持つ必要があります。そのため、座学だけでなく、実際に外に出て人と会い、さまざまな経験を積むことが重要です。このプログラムでは多くの方との交流があると思いますので、実践の場で活躍している人の話を聞ける貴重な機会を大切にしてください。



玉城 卓(たまき すぐる)
株式会社ソルファコミュニティ代表

北中城村を拠点に、12年前から自然栽培にこだわった農業と福祉の連携に取り組むソーシャルイノベーター。7年前からは、世界的に高単価で取引されるバニラビーンズの栽培と製品化にも挑戦。世界最大の産地であるマダガスカル産バニラに匹敵する品質を追求し、価格の安定化を図ることで生産者の持続可能なビジネスモデルの構築に取り組んでいる。季節限定や短期的な雇用ではなく、持続的で安定した雇用機会を生み出すことで、社会的弱者や就労が困難な人々への支援にも繋げていくことを目指している。

Q 本プログラムを修了した学生に期待することは？

A 良い社会を作って欲しいです。

私のすべての活動や学びの中心には、人々の幸福を追求することがあります。

修了生にはその思いを共有し、実現していったほしいと願っています。

Q 本プログラムに興味を持つ学生にメッセージ

A せっかく大学院のプログラムなので、2年間という限りある時間を有効に使って

基礎を作り上げて欲しいです。自分たちは基礎を飛ばして実践だけで来たので、困難な道のりも沢山ありました。そんな話を聞けるということは、これから実践していくために良いベースになるかと思います。楽しんでください。いやきっと楽しいと思います。色々な活動をしている人の話を聞いてしっかり吸収し、「問い」を持つことがソーシャルイノベーションの第一歩になると思います。

まとめ

大学連携型ソーシャル・イノベーション人材養成プログラムは、大学院という特性を活かし、多様な背景を持つ学生たちが集まり、それぞれの経験や視点を共有しながら成長する場。社会人経験を持つ学生もいれば、学部から直接進学してきた学生もあり、異なる視点の交差が新しい学びを生み出す土壌となっています。

この2年間という限られた時間を最大限に活用して、ソーシャルイノベーションの基礎を身に着けて欲しいです。新しいことを創造するには「多くの選択肢を持つこと」が重要であり、そのためには幅広い経験を積むことが欠かせません。本プログラムでは、座学だけでなく、直接的な関係が無いように見える活動や出会いも価値のあるものと考えています。

また、講義では実際にソーシャルイノベーションの現場で活躍している人々から直接学べる機会を提供する予定です。現場で培った具体的な知識や経験談を聞くことで、学生たちは実践的な理解を深め、将来のキャリア形成において貴重なインスピレーションを得られたらと考えています。

地域共創研究科院生に地域共創研究科での学びと、SIプログラムに期待することを伺いました。



地域共創研究科 1 年次
我那覇 久里夢さん



地域共創研究科 2 年次
松田 可奈子さん

Q1. 地域共創研究科で学んでいること、学ぼうと思ったきっかけは？

我那覇さん 地理学を専攻し、島嶼地域の切り花の流通について研究しています。学部での学びを継続したかった点と、専攻分野では解決できない課題も出てくる中で、専攻分野外のことも学ぶことができ、また、専攻外の学生と共に学ぶカリキュラムも多い点が魅力的でした。いろいろな人の意見を聞くことができ、それを自分の研究での気づきであったり、新しい視点に活かすことができると考え進学しました。

松田さん 公益財団法人に勤務しながら、社会人院生として社会運動論を専攻しています。コロナ禍をきっかけに格差問題に触れるなかで、気候変動などの環境問題と社会の在り方を学びたいと深く考えるようになり、進学しました。構造的に蓄積されてきた環境問題と、それに対する環境運動について研究しています。

Q2. SIプログラムの魅力を教えてください。

我那覇さん 社会に出たら様々な課題に直面し、これまで学んできたこととのギャップが出てくると思います。その際のモヤモヤを解決するために、ソーシャル・イノベーション人材養成プログラムのような取り組みがあることで、大学院での学び直しが身近なものに感じることができるので、そういった点が魅力的だと感じました。

松田さん 社会問題の根底から社会課題の事業実践ができるカリキュラムとして、他大学院の知見も学ぶことができるという点や、学位を修得しながら資格も取得することができるという点も魅力的です。この取り組みがあることを知っていたら、次年度入学を検討したかも！

ソーシャル・イノベーション・デザイナー 取得用履修モデル [公共社会プログラム 修士論文コースの場合]

※履修モデルは、あくまでも履修計画を立てるうえでの一例です。

※P6科目一覧の領域の色と科目名の色を対応させています。科目一覧と合わせてご確認ください。

その他プログラムの履修モデルはこちら▶▶



		1 年		2 年	
		前期	後期	前期	後期
専攻共通科目	学際融合基礎科目	・研究リテラシー ・地域共創入門			
	専攻基礎科目	・公共社会基礎 ・経済経営基礎			
	特別演習	・地域共創特別演習Ⅰ	・地域共創特別演習Ⅱ	・地域共創特別演習Ⅲ	・地域共創特別演習Ⅳ
	共通選択科目	・ソーシャル・イノベーション実践演習	・ソーシャル・イノベーション実践演習 ・ソーシャル・イノベーション入門		
専門科目	公共社会	・行政学A(地方自治論A)	・公的イノベーション論B	・比較社会学A ・地方自治論A(行政学A) ・持続社会支援論A	・観光地域社会学
	経済経営		・地方財政論特論		
	言語表象				
	文化環境				
	臨床心理				

ソーシャル・イノベーション・デザイナー 取得対象 3大学院科目一覧

社会構造・社会課題

認証要件／1科目以上

龍谷	都市政策研究
龍谷	都市計画研究
龍谷	社会政策研究
龍谷	環境政策研究
龍谷	地域経済学研究
龍谷	行政学研究
龍谷	地方自治体研究
龍谷	財政学・地方財政学研究
龍谷	環境社会学研究
龍谷	都市防災・危機管理研究
琉球	地域共創入門
琉球	沖縄政治行政研究Ⅰ
琉球	沖縄政治行政研究Ⅱ
琉球	観光地域社会学
琉球	社会政策演習
琉球	行政学A (※隔年開講)
琉球	行政学B (※隔年開講)
琉球	地方自治論A (※隔年開講)
琉球	地方自治論B (※隔年開講)
琉球	島嶼文化資源論A
琉球	持続社会支援論A
琉球	琉球民俗学特論Ⅰ
京都文教	社会課題とメンタルケア

全体

認証要件／1科目以上

龍谷	ソーシャル・イノベーション研究
琉球	ソーシャル・イノベーション入門
琉球	協働実践

イノベーション・変革

認証要件／1科目以上

龍谷	まちづくりとコミュニティ研究
龍谷	農村政策研究
龍谷	ローカルビジネス・イノベーション研究
龍谷	地域産業政策研究
琉球	社会政策特論
琉球	実践社会政策特論
琉球	クリエイティブ・エリア・スタディーズ
琉球	ソーシャリー・エンゲイジド・アート
琉球	公的イノベーション論A (※隔年開講)
琉球	公的イノベーション論B (※隔年開講)
京都文教	ソーシャル・イノベーションとキャリア支援

起業・マネジメント

認証要件／1科目以上

龍谷	非営利組織研究
龍谷	地域リーダーシップ研究 (※隔年開講)
龍谷	先進的地域政策研究 (※隔年開講)
龍谷	地域協働研究
龍谷	ローカル・ファイナンス研究
龍谷	政策学のためのデータ&AI活用
琉球	財政学特論
琉球	地方財政論特論
琉球	データサイエンス特論
琉球	統計学特論
琉球	AI特論

キャップストーン科目

必須

3大学合同 ソーシャル・イノベーション実践演習

認証要件について

- ☑ 「社会構造・社会課題」「イノベーション・変革」「起業・マネジメント」「全体」の4領域から、それぞれ1科目以上の合計5科目以上
- ☑ キャップストーン科目(1科目)
- ☑ COLPU提供の特別講義(1科目)

資格認証制度について

一般財団法人地域公共人材開発機構(COLPU)が認証機関となり、「ソーシャル・イノベーション・デザイナー」として、資格認証を受けることができます。資格認証には、基礎科目、キャップストーン科目、特別講義(COLPU提供)において、以下の通り、それぞれポイントが必要となります。(1ポイント=学習時間10時間)

- ✔ 3大学院が開講する共通基礎科目群の4領域(「社会構造・社会課題」、「起業・マネジメント」、「イノベーション・変革」、「全体」)からそれぞれ2ポイント以上を履修し計10ポイント
- ✔ キャップストーン科目8ポイント(通年科目として設置予定、自己学習時間含む)
- ✔ 特別講義履修(COLPU提供)2ポイント

詳細はこちらから



3大学特設Webサイト
(龍谷大学HP内)



琉球大学大学院
地域共創研究科HP
(SI特設ページ)



京都文教大学
特設Webサイト

お問い合わせ先

住所	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地 人文社会学部総務係
TEL	098-895-8210
E-mail	hbsoumu@acs.u-ryukyu.ac.jp